



第83巻 第1号  
年4回発行  
社会福祉法人 慈生会  
〒165-0022  
東京都中野区江古田3-15-2  
TEL 03-3387-5567  
http://www.jiseikai.jp  
振替口座 ベタニアの家  
00170-6-15317

それでも喜び、希望、感謝

シスター田代 嘉子

主のご降誕と

新年の喜びを申し上げます。

世界は普遍的な平和から程遠く、混沌とした闇に包まれています。

それでも、喜びと希望、感謝の心をもって、戦闘地で苦しむ多くの方々を想いながらも、私たちは新年を迎えることができました。

新しい年の初めは「神の母聖マリア」の祭日、救い主の誕生の秘義にマリア様が果たした役割を思い起す日とされています。マリア様は恵みの仲介者とも言われ、あらゆる時代や状況を超えて私たちのために祈



東星学園「マリア館」玄関に佇む使徒の女王聖マリアのご像  
御子をいつも示してください

りの取り次ぎをし、導き、その保護をもって慰めてくださいます。

今年の干支は辰、「振るう」という文字に由来していること、辰年のキーワードは「変革(転機)」や「激動」などと言われていることから、新しい躍動の年となることを期待しています。

一方、新約聖書のヨハネの黙示録では、七つの頭、十本の角をもつ赤い竜が登場します。この悪魔やサタンとも呼ばれる巨大な竜は天上でミカエルとその御使いたちと戦って敗れる話がありますが、

神は救いの歴史を通して、日々、地上のすべてを新たにし、やがて「新しい天と新しい地」(黙示録21の2)を完成してくださることを信じています。今年が真に神の慈しみを生きる年でありますように、新しい年が神様の祝福に満たされ、人類家族の一人ひとりに平和と希望の光が届きますように祈ります。

(慈生会理事長)

新常務理事からのご挨拶

薄井 康紀

ご帰天された櫻井正昭さんの後を引き継いで、慈生会の常務理事に就任いたしました。

簡単に自己紹介をさせていただきますと、一九七六年に旧厚生省に入省してから四十年にわたり社会保障の政策立案と事業運営に携わってまいりました。慈生会の運営には、数年前に評議員、その後理事として参画してまいりました。

慈生会は、創設者のフロッジャク神父のお考えを活かしながら、様々な福祉事業を展開してまいりました。社会経済情勢が変化する中で、各施設の運営には多くの課題もございませぬ。守るべき理念は守る、一方で必要な変革を進める、これにより真にご利用者様のための事業を目指したいと考えます。

民間の福祉施設の運営という経験は必ずしも十分ではありませんが、職員、そして地域の皆様のご理解とご協力を得ながら、任を果たしてまいりたいと考えております。何卒よろしくお願い申し上げます。

(慈生会常務理事)

謹んで主のご降誕と新年のご挨拶を申し上げます、皆様の上に豊かな恵みをお祈り致します。

社会福祉法人 慈生会

理事長 Sr・田代 嘉子

役職員一同

徳田保育園

中野トータルサポートセンター

ベタニアホーム・慈しみの家

ベタニア・デイ・ホーム

中野北ベタニア訪問看護ステーション

慈生会中野ケアプランセンター

ベタニアヘルパーステーション

中野区江古田地域包括支援センター

ナザレットの家

ベトレヘム学園

聖家族ホーム

聖ヨゼフ老人ホーム

慈生会清瀬ケアプランセンター

ベトレヘムの病院院

マ・メゾン光星

指定相談支援事業所 ノエル

放課後等デイサービス エスポワール

多機能型事業所 フルール

学校法人 東星学園

(幼・小・中・高等学校)

理事長 Sr・田代 嘉子

教職員一同

ベタニア修道女会

総 長 Sr・田代 嘉子

姉妹一同

光星祭2023リポーン  
SAIKAIフェスタ開催

田野 昌弘

マ・メゾン光星では、去る令和五年十月一日に四年ぶりとなる光星祭が開催されました。今回のテーマは「リポーン SAIKAIフェスタ」です。新型コロナウイルス感染症の大流行で、帰省や外出、面会などの制限があり、皆が待ちに待った光星祭。ご利用者と、御家族の皆さま、職員のみ参加となりましたが、それぞれが再会の喜びを感じ、光星祭を再会できたことを嬉しく思います。今回は、ボランティアさんや地域の皆さまの参加は御遠慮いただきましたが、模擬店では、職員がシュラスコやけんちん汁、栗おこわなどを作り、家族会の役員さんたちが焼きそば、初の試みでキッチンカーを呼んで様々な食べ物に舌鼓。アートギャラリーでは、各ファミリーや通所ご利用者のコロナ禍での施設内イベント風景の写真展示や各療法活動で作した作品の展示、共同製作では星の塔を作成しました。ステージでは、ここ数年に入職された若手職員が、みんなに元気を届けようとしてよさこい演舞を披露し、会場を湧かせました。また今回のテーマにそった、オリジナルソング「頑張っとうー！」を作り披露し、会場のみならず大合唱をして盛り上がりました。

ご利用者やご家族の皆さまも久しぶりの大きな施設イベントを共に楽しんで、笑顔溢れる姿を目にすると、

やっぱり光星祭という一大イベントを皆さまが楽しみにしてくれているのだなあ、そしてこれからも続けないかなくてはいけないマ・メゾン光星の伝統行事なのだと感じました。



新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられました。以前の様に近隣地域の方々やボランティアを始め、外部からいらしてくださる皆さまにも楽しんで頂けるような光星祭が、また開催できる日が来るよう願うばかりです。



今回の光星祭で見せてくれた、皆さまのとびきりの笑顔は、今なお脳裏に焼き付いて離れません。また、お越しいただいたご家族の皆さまに心より感謝いたします。(マ・メゾン光星生活支援員リーダー)

どんぐり祭、開催。

中本 次郎

コロナで学園内だけのミニどんぐり祭は行ってはいたものの、卒園生・旧職員または地域の人に声をかけての開催は四年ぶりとなりました。大きなどんぐり祭を経験した職員も少なく、当時の写真や映像でイメージをしたり、話しをしたりして企画準備を進めてきました。

今までのやっていたコーナーを残しつつ、ピザのキッチンカーやボランティアでの焼きそばなど新しい試みを行いました。また旧園舎でやっていた「どんど焼き」を十年ぶりの復活も一度限りかもしれませんが企画し実現しました。

当日は快晴、思っていた以上のお客様が来場し、会場内では、シスター方や卒園生・旧職員など久しぶりに会えたことをニコニコと話している輪や旧職員と幼い時のことを話している輪、卒園生同士で近況や懐かしい話をしている輪など、これぞ「どんぐり祭」と、温かくもありどこか懐かしくもある場となりました。準備してきた苦労も忘れることができた時間でした。



多くのお客さんと卒園生や旧職員やシスター、学園のみんなや普段から学園を支えてくれる皆さんのみなで笑顔に過ごせたことに感謝でいっぱいです。また来年、このどんぐり祭の会場で会えることを楽しみにしつつ、来年盛り上げるための企画への妄想は始まります。(ベトレーム学園個別対応職員)

四年ぶりの東星バザー

大矢 正則

十月二十九日、東星バザーを開催いたしました。新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年は規模と時間を縮小しての実施、その前の二年間は中止でしたから、四年ぶりの完全開催となりました。

当日は、在校生と保護者の方だけではなく、卒業生とその保護者の方近隣の方に来ていただくことができました。ベタニア修道女会からもシスターが何人かお出でになりました。東星バザーの始まりは、一九五九年に遡ります。九月に列島を縦断した伊勢湾台風は各地に被害をもたらした、東星学園でも一部の校舎の屋根が吹き飛ばされてしまいました。そこで創立者フロッジャク神父様は、その修繕にかかるお金を、東星に集っている仲間で作りに出そうと考えたのです。

神父様のお考えに賛同した東星の仲間たちは、早速その年の十二月十六日にバザーを開催することに決めました。当時は米軍基地から不要になった物品をもらい受け、それらを売ったりしてお金を作っていたそうです。また、その頃から既に保護者

の皆様からは厚い協力をいただいていたようです。



ところで、フロッジャク神父様は当時ご病氣と闘っており、この年はかなり病状も悪化し、床に臥す日が多かったそうです。そんな中でも、神父様の社会事業の出発点であった患者訪問は欠かさなかったと伝えられています。しかし、バザーの開催予定日の四日前、十二月十二日、「さよなら」の一言を残し、神父様は天国へと旅立ってしまいました。

残された東星の人たちは、大黒柱を失い途方にくれました。しかし、東星ファミリーは師フロッジャク神父様のご遺志を貫くために、神父様の旅立ちの四日後の東星バザーを予定通りに敢行したのです。

以来、「家をつくる・なかよく働く」というスローガンのもと、六十年にわたって東星バザーは脈々と引き継がれています。

(東星学園小・中・高等学校校長)

ベタニアの家チャリティーコンサート報告

実行委員 高野 優一

十二月五日(火)、野方区民ホールで「ベタニアの家チャリティーコンサート」が行われました。師走のお忙しい中、多くの方にご来場いただきましたことを心より感謝申し上げます。



今回のチャリティーコンサートは清瀬地区で高齢者事業を運営しております特別養護老人ホーム聖ヨゼフ老人ホームの改修及び一部改築の支援を目的に企画いたしました。出演頂きましたテノール歌手の黒田晋也様とピアノ奏者の黒田聡子様にはアヴェ・マリア(シューベルト)、君

を愛す(グリーグ)、千の風になって等、二十曲以上の素晴らしい歌声と演奏を披露していただきました。コンサートに参加された聖ヨゼフ老人ホームのご利用者様からは「入所して10年以上が経つけど初めてコンサートに参加できて嬉しい。長生きはするものね」と喜ばれている姿が印象的でした。



聖ヨゼフ老人ホームは、ご利用者様、ご家族様と共に手を取りながら、創立者フロッジャク神父様の遺志を引き継ぎ、今後も清瀬の地で事業運営を続けてまいりたいと思っています。最後にチケットの売り上げとご寄付の総額は七四八、七三〇円となりましたことをご報告させていただきます。

(聖ヨゼフ老人ホーム 施設長)

未来の子どもたちからの  
預かりもの  
種まきシリーズ ⑧  
ヘタニア修道女会



地球温暖化から

↓  
地球沸騰時代に  
シフト 解決は  
世界の共同責任

今後10年間の選択と  
対策が数千年先まで影響  
(IPCC)

昨年十月四日、教皇フランシスコは善意あるすべての人に向けて呼びかける使徒的勧告『ラウダー・テ・デウム（神をたたえよ）LD』（邦題『気候危機について』）を発表されました。8年前に出された回勅『ラウダート・シ』とともに暮らす家を大切に『の続編になり、両書はカトリック教会の環境問題に対するあり方を示しています。

- ▼気候変動は人為的要因ではないという思考（LD 11）から
- ▼「テクノロジーの助けを借りれば能力と可能性を無限に拡張できる（LD 25）」という過信から
- ▼世界を搾取や抑制なき利用の野心的対象としてよいとの思い込みから
- ▼目標達成のための真に権限ある機構の不在（LD 35）から
- ▼気候会議の合意の低履行率から
- ▼世界の共通善より自国の利益を優先する立場をとり、国際交渉で大きな進展が遂げられない（LD 52）から
- ▼国家レベル・国際レベルの大きな政治的決断を実行していくことで。
- ▼家庭での無駄をなくし、賢明な消費への努力で新たな文化を創出していくことで。

毎年この時期になると、第三者評価の利用者家族のアンケート調査の結果が届きます。今回も面会に対する要望が圧倒的多く、元通りに自由に面会を希望されるご家族が多いことを再確認しました。今年（令和6年）からは、一歩進んで予約制ではあるがフロア面会が可能になっているはずですが、徐々にではあります。コロナ禍前のベタニアホームに戻ることをお約束します。宜しく願っています。

（中村 英男）

夏の行事に続いてベトレヘム学園の最大の行事である「どんぐり祭」



訃報

シスターマルシアナ 島山 和重

生 一九二九年八月八日 立誓願  
一〇二三年十一月十七日 婦天願  
歴 八月八日 生  
一〇二三年十一月十七日 天願  
ベタニア修道女会

が四年ぶりに開催されました。それに続いて七五三の行事で四名の児童のお祝いを教会にて行いました。また自治会主催の芋ほりにも参加し、たくさんの芋を収穫できました。今後もクリスマス会などの行事も予定されており、予定通りに行事が開催できることに感謝です。（関 広宣）

これから待降節を迎える中、この後記を書いています。私達マ・メゾン光星では、待降節の目標を皆で考え、目標を胸にクリスマスの喜びを迎えます。そうした中、クリスマス後の年明けから「待降節の目標は？」と問いかけてくるご利用者がいらっしやいます。その方には1年中が待降節なのです。「待降節終わったばかりですよ」と返答しつつ、その方がいつでも喜びと何か目標を探しているよう、大切な事を教えていただいています。（杉山 智和）

二〇二四年が、平和へ二歩も三歩も前進する年でありますように。

ベツレヘムの馬小屋の飼葉桶に神の御子をお迎えしようとする傍らで、ガサの子どもたちが冷たく固い瓦礫の中に埋もれ、傷つき、いのちを失うという待降節でした。今、世界の百以上の地で内戦・紛争・戦争が起こっており、暴力的にいのちが奪われています。平和の実現のために祈りましょう、諦めずに願ひ続けていきます。（Sr中野 利恵）